

# ナシの生産安定対策（ブランド産地の生産力強化）

## ねらい

老木化したナシ園の改植は産地維持のために不可欠であるが、生産者の高齢化、改植による未収益期間の発生等により進んでいない。そこで、早期成園化による未収益期間の短縮と作業の省力化が期待できるジョイント仕立て栽培（以下、「ジョイント栽培」）の実証ほを設置し、ジョイント栽培の導入を推進し、改植の促進につなげる。また、全国的に問題となっている発芽不良について、管内での実態を把握し、対策の検討・周知を行う。

## 活動地域・対象

管内全域（主に鳴門市、松茂町、北島町、藍住町、板野町）のナシ生産者

## 普及活動の目標

- ・ジョイント栽培実証ほ設置と技術支援
- ・発芽不良対策の効果検証と対策の普及

## 目標に向けた活動概要

### （１）ナシジョイント栽培の状況

現在、6名の生産者がジョイント栽培を行っている。うち1名の園地に新たに展示ほを設置した。展示ほでは、苗木育成の障壁となっている育苗用ほ場の確保、水管理に対して苗木をポット育苗せずに速やかに本圃に定植する方法を検討する。

### （２）支援班による支援活動

もうかるブランド推進課、高度技術支援課、農産園芸研究課、徳島農業支援センター、JA全農とくしま、各JAで構成する支援班を設置し、実証ほの巡回を行い、技術指導及び情報共有を行った。また、検討会を開催（7月4日、10月21日）し、病虫害対策や整枝剪定等、栽培技術の課題について検討し、指導に反映した。

### （３）ナシジョイント栽培現地説明会（7月15日）

ナシジョイント栽培の推進のため、ジョイント栽培に取り組んでいる2名の生産者展示ほ場で現地説明会を開催し、約45名が参加した。

### （４）ナシ発芽不良の調査及び検討会

昨年度に引き続き、農産園芸研究課、資源環境研究課、JA全農とくしまと連携して着花状況、低温遭遇時間等の調査を行った。また、調査結果の検証及び今後の方針について検討（10月21日）し、剪定講習会（11月21、22、29日）で結果の報告と今後の管理について周知した。

## 普及活動の成果

- ・「勝ち抜く！園芸産地強靱化事業」を活用して、ナシジョイント栽培の課題解決実証展示ほを設置した。
- ・導入した園に対して、関係機関との定期的な巡回により、現地の課題に対する即応及び情報の共有が図られた。
- ・6名の生産者のうち1名が令和3年に収穫を開始し、10a当たり目標収量が幸水3,500kg、あきづき5,000kgのところ、幸水370kg、あきづき480kgの収量となった。植栽から5年目の令和4年には本格収穫となり、幸水1,590kg、あきづき1,120kgの収量となった。
- ・関係機関との検討会開催により課題に対する議論が深まり、計画的な指導ができた。
- ・農産園芸研究課より、冬施肥から春施肥への変更が果実品質に影響を与えないことが示された。そこで、冬施肥から春施肥への時期の変更が発芽不良対策として有効であることをせんだ講習会で周知した。
- ・現地の生産者の協力により、発芽促進剤（薬剤名：CX-10）の散布試験ほを設置した。（JA全農とくしまにより7園）



ナシジョイント栽培現地説明会



せんだ講習会で発芽不良対策周知

用語説明 ジョイント仕立て栽培：神奈川県開発の特許技術。JA全農とくしまが契約締結し、県内で栽培可能となっている。

## 今後の発展方向

- ・関係機関と連携して技術支援を行い、ナシジョイント栽培実証ほの早期成園化を支援し、改植の促進につなげる。また、講習会や見学の受入等により普及を図る。
- ・関係機関と連携して現地に設置した各種の発芽不良対策実証ほの調査及び検証を行い、管内の発生状況に合った発芽不良対策の向上を図る。

## 関係者からの声

- ・栽培方法を専門家から聞ける機会があってよい。（ジョイント栽培を導入した生産者）
- ・実証ほは先進的な技術を見ることができるよい機会である。（ジョイント栽培を導入した生産者）

## 鳴門藍住農業支援センター

連絡先：徳島県板野郡藍住町東中富字拙傍示29 tel：088-692-2515